

「続 統計学入門」

横浜市戸塚保健所所長 杉 田 暉 道 著

横浜市立大学教授・小児科

松 山 秀 介

基礎的な実験であれ、臨床的な研究であれ結果の評価に統計学の手法が必須の時代になってきている。動物を使つての研究、症例についての研究では多くの数を対象とすることは困難であり、データのバラツキも大きい。数字を見ているだけでは傾向としての判断は可能であろうが、理論的裏付けがなければ、研究の価値、評価は低くなってしまう。学生時代の教科書あるいは新刊の統計学の解説書を読んでも実際にどれを、どのように処理したら、目的とする評価が可能となるのか、理解するのに苦しむ人が多いのであろう。著者は医師であり、医学部公衆衛生学講

座に長く所属し、医学研究の統計処理について造詣が深く、既に16年前に統計学入門を執筆され、医学者に多く利用されている（改訂第4版、1984、¥2,200）。本書はこの間の読者や関係者の注文を十分に取り入れ、より実用的な内容となっており、前書の応用篇と言えるものである。

第1章：得られたデータを解析するにはいかなる統計学的方法を用いたらよいか、では6つの方法を挙げ、事例につき解説してある。第2章：計算方法、では実際の計算方法から、その評価の仕方について述べられている。1. 平均値、2. 百分率、

3. 相関関係と回帰直線、4. 分散分析、5. Ridit 分析を行う場合、6. Ridit 分析、 t 検定、 χ^2 検定、Mann-Whitney の n 検定の比較、7. 生存率の求め方と2つの生存曲線の差の検定、から成っている。それぞれ目的、方法、利用法、有意性の検定法、評価について事例を挙げ、解説されている。

一読して、まず目次がわかりやすく、必要な場所がすぐ開けるようになっている。そしていずれの項においても、実際にわれわれがぶつかるような例題を数多く取り上げ、解説を加えているので、非常に実用的である。

長い間、医学統計に携わり、かつ多くの医師から相談を受け、指導した実績のうえに立っているからである。統計の苦手な先生方には是非身近に置いておかれることをおすすめしたい本である。

A5判 126頁 図8 1984 ¥2,000
送料250円
医学書院 刊